

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372500856		
法人名	有限会社 富士松		
事業所名	グループホーム 輪楽笑		
所在地	春日井市白山町5丁目5番地の2		
自己評価作成日	平成29年 9月 1日	評価結果市町村受理日	平成29年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※いまを生きる。自分らしさを実感できる外出支援。
 外出は社会との接点を与えてくれる。行きかう人々を眺め風を、音を肌で感じそして聞き
 自分の意思で外部とのつながりを感じ取り、一個人として社会と直接触れ合える事が 外出支援の基本
 である。
 ※毎日を元気で楽しく笑いながら共に いまを生きるホームです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JiyosyoCd=2372500856-004PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者・職員は運営方針である『ゆっくり楽しくみんなで』を基本に、職員による見極め・見守りが出来る
 ケアの質の向上に強い意欲を持って取り組んでいる。『手を出しすぎでないか』『利用者が何処まで
 出来るのか』等、利用者一人ひとりの能力を最大限生かす為に絶えず職員が検討し、目的である
 『生活支援・自立支援』に管理者・職員が一丸となって取り組んでいる。
 食事場面では、下ごしらえから盛り付け、配膳までの一連の流れに利用者が参加し、ワゴン・歩行
 器・食器を拭く為のテーブルや食器棚の配置にも工夫を凝らし、家庭的な雰囲気が感じられる。
 訪問当日、利用者の居室を訪ねると『又来てね』と挨拶があった。居室の1つ1つが家庭であり、ホ
 ム全体が職員をも含めた家族となる様に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年 9月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 みの 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 みの 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざしたホームであることを目標に、日常生活がごく普通に送れるよう日頃からご近所との繋がりを大切に支援している。	理念・運営方針を掲示し、利用者の人格を尊重し、『わっはっは』と笑える楽しいホーム作りに取り組んでいる。家族アンケートに『職員は常に笑顔で優しい、利用者本人も笑顔で穏やか・・・』と称賛の言葉が多くある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりで定期的に行っている各種催事、夏には夏祭り、そうめん流し、そして秋にはパーベキュー大会、年末にはクリスマス会と餅つき大会とご近所様に気楽に声を掛け訪問出来るホームです。	地域行事(盆踊り・お祭り・清掃活動・防災訓練等)に参加している。ホームの行事(夏祭り・クリスマス会・そうめん流し等)を回覧板・チラシで発信し、ソーメン流しには地域の子どもも参加し、双方向の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域にホームの存在を広く知って頂くために散歩時に於いては挨拶を交わし、認知症はどうであるかありのままを出し活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開かれホーム内の問題点など発信し、話し合いを重ね改善案などを頂きそれをサービス向上に活かしている。	市役所・地域包括支援センター・社会福祉協議会・民生委員・利用者・家族・職員のメンバーで年6回開いている。会議ではホームの報告に留まらず『外出支援時の不明者発生』に対して積極的な討議が持たれた。	ホームの目標達成計画を議題として取り上げ、進捗状況を報告すると共に、意見・提案を募ってホームの改善活動に繋ぐ事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度上不明な点は積極的に問合せし、万が一の事故発生時には早急に報告し、指導を頂きながら良好な関係を築いている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの状況は行政に理解されている。日常的に分からない事や問題点は地域包括支援センター職員に相談し、適切なアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員禁止対象となる具体的な行為を理解し、利用者の行動を制限する事無く又、言葉による拘束も行わない事を原則に見守り、声掛け支援している。	利用者の自由な生活が尊重され、身体拘束をしないケアが実践されている。玄関は開錠され、中庭にも自由に行き来できる。施錠することなく、職員のスキルにより外出したい利用者のサインを見逃さないよう、職員は見守りを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束について要点をまとめたものをスタッフ全員配布している。又、事務所内の目の触れるところに掲示がしてあり意識を高め防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定例会議の場などで必要に応じて支援に活用していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	正式に入居が決まり面談の時、契約書及び重要項目説明書を配布し説明をする。一方的ではなく理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族が来所された際は、要求が有れば又積極的にケア記録等に目を通して頂いている。	家族の来訪の際、ホーム長・管理者が対応して意見・要望を聞いている。家族アンケートの回答者全員から称賛の言葉を頂き、改善点の指摘は無く『何時訪問しても気軽に受け入れて・安心・』との声がある。	家族アンケートの結果は良い評価を得ているものの、ホームから足が遠のき参加しない家族も多い。ホームから足の遠のいている家族が、ホームに興味を持つ工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの日頃からの意見を常に耳を傾け必要に応じて反映させている。全体に必要な場合は定例会議に於いて共有している。	ホーム長・管理者は日頃から職員に声かけし、コミュニケーションを大切に話しやすい雰囲気を作っている。職員からの提案『室内用流しそーめんセットの購入』は即実現し、イベントの具体化に繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は必要に応じてホームを訪れ見守りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会を受講した際、定例会議に於いて研修報告を行い共有化している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やブロック会議を通じて交流しそこで得た、必要と思われる事項を取り入れ反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の体験入居により意向や想いなどをくみ取りサービス計画書、モリタリングに沿った支援に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ多くの情報を本人及び家族から聞き取りし、本人及び家族の思いに沿った支援をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	検討できるよう他の施設の情報を提供し「その時」の最良の支援を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者全員が家族として泣いたり、笑ったり、怒ったりと普段と変わらぬ日常生活を送り信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活の様子を毎月発行の通信でお知らせしている。又、手紙や電話そして来所の際の対応時に伝え提供し家族の不安を取り除いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人は勿論、利用者が生活して来た場所等ドライブするなど支援をしている。	幼馴染み・近所の友人・職場の同僚等、利用者や馴染みの方の来訪が継続している。来訪者に『あんた誰?』との言葉で遠のいて行く事例もある。ドライブの途中で『ここのお家』『この喫茶店』と懐かしむ利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は日頃の交流を通じ見守る中で把握し、最善のコミュニケーションを取り入れ実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が切れたからと言ってそのままにせず、現在の状況を把握して相談や支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でスタッフの見守ることによって動きや表情などから”今”の気持ちを受け止め支援している。	職員は日頃から1対1(散歩・夜勤・入浴時等)で寄り添って話を聞き、思いを聞き出している。寄り添って話す『食いたい』『行きたい』等の会話が進む。『墓参りに…』の思いは家族の協力で実現した。	直ぐ実現出来る『思い』を把握して叶えた事例が多くある。時間がかかったり、計画的に進める必要のある『思い』を介護計画で取り上げ、実現して行く事を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族から出来るだけ多く情報を得てはいるが、入居後の日常生活での変化などを取り入れサービス向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りや部屋の環境を見ながら、現状の心身の状態を把握して出来るだけ不安を取り除いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状を正しく把握する為、全員でモニタリングを共有し問題点等を抽出して介護計画の作成に反映させている。	計画作成担当者が、職員からの意見や情報、家族の意向等を取りまとめている。自らも積極的に利用者から思いを聞きだし、介護計画に反映させている。日々の記録も色分けして記入する等、工夫を重ねている。	利用者のその人らしさ(個別ケア)の感じられる内容を盛り込み、手の届く具体的な短期目標にして利用者・家族・職員が共に達成感を味わえる介護計画を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの中でどんな些細な事でも記録し申し送りをして全スタッフが情報を共有化している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前の環境は一人一人違う為、その時々に変化することに対して、既存のサービスだけでなく柔軟に対応出来るようスタッフ全員が色々な事に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアグループによる定期的な訪問を受けて歌に踊りにバンドなど楽しみ、地域主催の行事にも参加。その他にも外出支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回登録病院の定期診察を受け、24時間の対応を頂きホームとの関係も良好であり、安心をして支援している。	利用者全員が協力医をかかりつけ医とし、月1回の往診がある。急な往診にも対応が可能であり、ホームと協力医の信頼関係が構築されている。専門医の受診は基本家族対応である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専任の看護師による一人ひとりの利用者の日常の健康状態を把握しているので、相談や助言を得る事が出来それを基に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談員との連絡を取り合い利用者が安心して入院が出来るよう対応をしている。家族には出来るだけ細かく現状をお知らせし不安なよう取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホーム、専任看護師、家族そして医師の4者と話し合い、特に家族には出来るだけ細かな説明をして納得したうえで、最大限の事を共有化している。	管理者は、本人・家族の意向があり、医療行為がない限りホームで対応し、その時が来たら家族・医師・ホームで話し合いを行って柔軟に取り組む考えである。医療行為が発生して搬送先で亡くなっても、葬儀には参列する関係を継続している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフは年2回の救急隊員による救急法を学び、反復し急の利用者の変化に対して対処している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフ全員が平均的な習得を目指し消防訓練を定期的実施している。又、月1回の避難訓練は利用者全員の参加で実施している。	『避難誘導の習慣づけ』で、音が鳴ったら非難の訓練を毎週金曜日に行っている。年2回消防立会いの下、初期消火・救命救急等の訓練を行っている。法人として近隣公民館でAEDを使用して心肺蘇生も実施している。	運営推進会議のメンバーに避難訓練の状況を見せ、『夜間の一人体制での避難誘導の限界』を理解してもらい、会議の議題に取り上げて地域の協力体制の構築を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事、家族の一員である事を常に念頭に置き、利用者一人一人に合った声掛けで対応をしている。	職員は利用者を年長者として尊敬し、さりげない介護を実践している。トイレ・入浴時の戸閉めの励行、入浴時のタオルを用いての羞恥心への配慮、利用者の呼称(さん付け)等に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で何気ない言動を理解しくみとり、推測し自己決断が出来るよう誘導支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	過去の環境が一人一人違うのでその人の個性を尊重し特性特技を考慮しながらその人らしい”楽しく満足”が行くように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身支度時に季節に合った服装等になるよう声掛けしながら整え、時として美容院に行くよう勧めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食えることが如何に楽しい事かホームで作られた野菜などを自分で収穫し、献立を考え下ごしらえをする事によりテーブルに並ぶことを想像し楽しめるよう支援している。	畑での野菜作り・収穫・刻み・味見・配膳・下膳・食器洗い・拭きあげ等を『力量・要望』に応じ、利用者が職員と協働している。昨年同様に職員と区別が出来ないほど、生き活きとして食器を洗う利用者を見た。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー表を基に毎日の献立をチェックして過不足が出ない様努力している。水分確保は水分を取る様にするように適時声掛けしている。又、常時水分補給出来るように決められた場所にお茶を用意してある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず見守りの中歯磨きを実行させている。口腔ケアは定期巡回訪問歯科で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の体調を見守りながら、排泄の様子やパターン等を取り入れ特に注意している。	利用者個々のパターンや特徴を把握し、定期的に声かけ・誘導してトイレで排泄出来るように支援している。『入居時オムツ⇒紙パンツ』『自宅紙パンツ⇒布パンツ』等自立支援の取り組みがなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の一つ体操を実施、食事は出来るだけ繊維質の多い食事を提供する事に心掛けている。又、利用者の個々の状況にあった水分補給を勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者に合わせ時間調整をし常に清潔を保つためと楽しみに心掛けている。又、入浴剤や石鹸は保水力、低刺激等に配慮している。	隔日の入浴を基本にしている。入浴拒否の利用者には無理強いせず、同性介護等柔軟に対応している。季節感を味わう『菖蒲湯・柚子湯』や入浴剤の工夫をし、楽しくゆったりした入浴になる様に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日その日の体調により何時でも休息できる環境に努めている。巡回時には室温、寝具等のチェックと調整を行い。安眠が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり服薬しているのが、目的や副作用、用法用量が異なる事を確認し、必ず手渡しで服薬時は見守っている。服薬の変化は登録病院へ連絡し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味、嗜好、特技等を生かしレクや制作、作業などに活用して楽しみや張り合いが出るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に全員参加の散歩を実施し気分転換を図っている。又、随時少人数の散歩も実施している。散歩は楽しむように心がけ支援している。	日常的には、天候に配慮した散歩・神社参拝等を2～3人の個別で実施し、行事的には全員参加の外出(イチゴ狩り・季節の花見等)を行っている。1ヶ月の生活の様子に外出状況を詳細に伝えており、家族アンケート『外出』の項では、全員が満足と答えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使う事の支援は外出時に自分で好きなものを買ってレジでの支払いまで見守り支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話や手紙のやり取りの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂は広く明るい光が差し込み居心地の良い空間となっています。壁面には利用者の作品や写真などが掲示してあり話題の種は欠かしません。各々の思い出などでおしゃべりの花が咲きます。中庭は四季折々の花が楽しめます。	居間には利用者の作品・外出時の写真が飾られ、利用者の笑い声が溢れた和やかさと相まって、活気溢れる空間が作られている。台所で夕食の下準備をしたり、テーブルでトランプを楽しんだり、それぞれの利用者が自由に伸び伸びと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	屋内に於いては、居間食堂に共用スペースを設け各自過ごしやすいよう席の配慮もされています。ベランダにはベンチを置き外気浴などが出来ます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については入居時、本人と家族の意見を出来るだけ取り入れ、本人が安心して暮らせるように工夫している。	居室には使い慣れた家具が持ち込まれ、壁一面に利用者の作った作品(編み物・絵・紙細工等)が飾られ、利用者の趣味の分かる居室になっている。位牌を持ち込み、毎日手を合わせる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリー化され共用スペースは広く、歩行器歩行は容易に出来各所に手摺りも設置されて自立した生活が安全に出来るようになっている。		